

PressRelease

報道関係者各位

2026年7月29日
KELA株式会社
ULTRA RED Ltd.

KELA、AIを活用したCTEMプラットフォーム製品群を日本市場で発表

サイバー脅威インテリジェンスのグローバルリーダーであるKELAグループの日本法人、KELA株式会社（登記上の本社：東京都千代田区、事業拠点：東京都港区、執行役員兼COO：廣川 裕司、以下「KELA」）は、2026年7月29日、同グループ傘下のULTRA RED, Ltd.（本社：イスラエル、CEO：Eran Shtauber、以下「ULTRA RED」）のCTEM（Continuous Threat Exposure Management：継続的脅威エクスポージャー管理）プラットフォームのAI機能を強化し、自動検証と脅威エクスポージャーの検出能力をさらに高度化します。

あわせて、デセプション技術を提供する「H1VE」と、検出されたリスクを全自動または半自動で修復を可能にする「CRIMSON」を日本市場に投入します。

これにより、最新のサイバー脅威の検出とインテリジェンス化から、脅威エクスポージャーの検証と優先度付け、修復までを一貫して支援する「AI Powered CTEM」へと進化します。

1. 市場背景：フロンティアAI時代に求められる迅速な脅威検出と修復

フロンティアAIの台頭により、AIのデュアルユースが進み、サイバー攻撃は高度化・巧妙化・複雑化するとともに、その実行スピードも急速に高まっています。こうした環境で自組織を守るためには、最新の攻撃の兆候をリアルタイムに捉え、その攻撃の影響を受ける資産が自組織に存在するかを迅速に検証し、脅威にさらされている資産には、可能な限り短時間で修復することが求められます。

2. 今回の発表内容

(1) AI機能の強化：AIスキャナー

AIスキャナーは、ベクトルスキャナーによる確定的な検証を基盤に、スキャン中に得られた情報や過去の検証結果を記憶し、アプリケーションの構成、認証フロー、隠れた経路などを再構成します。これにより、単一の脆弱性の立証にとどまらず、複数のステップからなる多段階の脆弱性経路をAIが推論・探索し、最終的にはベクトルスキャナーが取得した証拠に基づいて、脅威の有無を確定します。

(2) H1VE：実際の攻撃を誘引し、脅威インテリジェンスへ転換

H1VEは、実在するアプリケーションやシステムを模した「ルアー」を容易に展開・一元管理し、実際の攻撃者を安全に誘引するデセプションプラットフォームです。顧客の実環境から隔離されたルアーへの攻撃をリアルタイムに観測し、攻撃者のIPアドレス、ペイロード、攻撃手法、C2インフラなどを実用的な脅威インテリジェンスへ転換します。さらに、得られたインテリジェンスをULTRA REDのCTEMプラットフォームと連携し、同様の攻撃による影響を受ける資産が自組織内に存在するかを検出・検証します。

(3) CRIMSON

CRIMSONは、ULTRA REDのCTEMプラットフォームで検出・検証された脅威エクスポージャーに対し、修復・是正・緩和策を自動、または担当者の承認を経て実行します。コードリポジトリと連携した修正コードやプルリクエストの生成に加え、恒久的な修正に時間を要する場合には、WAFやFirewallへ攻撃経路を遮断するルールを適用し、リスクを迅速に低減します。適用後はCTEMプラットフォームがその有効性を継続的に検証します。

提供価格：オープン価格（詳細は弊社営業または販売代理店にお問い合わせください）

提供時期：2026年下半年期

PressRelease

3. ACRDのサービス提供開始と価格設定

本年3月17日に発表したアクティブサイバー経営管理ダッシュボード「Active Cyber Readiness Dashboard」(以下「ACRD」)のサービス提供を開始します。

ACRDは、「Cyber Threat Intelligence」(以下「CTI」)、「CTEM」および「Third-Party Risk Management」(以下「TPRM」)の3つの戦略領域に関する情報を統合し、経営層が自組織のサイバーリスクと対策状況を俯瞰的に確認できる経営者向けダッシュボードです。これにより、サイバーセキュリティ戦略に関する迅速な意思決定を支援します。詳細は、[2026年3月17日付の発表](#)をご覧ください。

当初は無償での提供を予定していましたが、正式なサービス提供の開始に伴い、提供内容および支援体制を踏まえて価格を設定しました。

参考価格:800万円～

※提供範囲や導入条件により価格は異なります。詳細は、弊社営業担当または販売代理店までお問い合わせください。

KELA株式会社 執行役員COO 廣川 裕司 のコメント

「日本政府が『能動的サイバー防御(ACD)』の法制化を進める中、企業や組織に求められるのは、単に脆弱性を『見つける』ことではなく、それが本当に脅威なのかを『検証し、即座に対処する』スピードです。KELAが誇るサイバー脅威インテリジェンスと、同グループであるULTRA REDの確定的検証・自律型AIを融合させることで、日本の組織は誤検知に煩わされることなく、MTTR(平均復旧時間)を2～3倍高速化させることが可能になります。本プラットフォームを通じて、日本の重要インフラや企業のサイバーレジリエンス強化を強力に牽引してまいります。」

■ ULTRA RED CEO エラン・シュタウバー(Eran Shtauber)のコメント

「AIによって攻撃手法が高度化・高速化する現代において、従来型のASM(外部攻撃対象領域管理)や一般的なCTEM(継続的脅威エクスポージャー管理)ツールのように大量の誤検知アラートを出すだけのテクノロジーは機能していません。また、AIだけに頼ったセキュリティ判断も不確実性が残ります。ULTRA REDは、信頼性の高い『検証(Validation)』と、自律的な『AI推論』を融合させることで、誤検知をゼロにしました。KELAとの強力な連携のもと、この革新的なソリューションを日本の皆さまにお届けできることを嬉しく思います。」

■ KELAについて

<https://www.kelacyber.com/ja/>

サイバー脅威インテリジェンス企業として数々の受賞歴を誇るKELAの使命は、サイバー犯罪のアンダーグラウンドからの脅威に関して、実用的なインテリジェンスを提供し、サイバー攻撃の防止と無力化をサポートすることです。2009年に設立されたKELAは、独自の自動化テクノロジーと、高度な技術を持つサイバーインテリジェンスのアナリストを擁しており、数々の成功を収めています。世界中で信頼を得ているKELAのテクノロジーは、隠れたアンダーグラウンドに侵入し、脅威を徹底的に監視、追跡、調査することで、実際のリスクを明らかにし、プロアクティブな保護を可能にします。KELAの革新的なソリューションは、攻撃者の目から見た、高度にコンテキスト化されたインテリジェンスを顧客に提供し、プロアクティブなネットワーク防御、ならびにブラインドスポットの排除を実現します。KELAの日本法人は、2019年に設立されました。

※KELAグループのULTRA RED、SLINGの詳細は以下をご参照ください。

<https://www.ULTRA RED.ai/jp/home>

<https://slingscore.jp/>

【本件に関するお問い合わせ先】

KELA株式会社

マーケティング・広報担当

Mail: jap-pr@ke-la.com